

小学校音楽科教科書における創作活動の取り扱い

—題材のねらいと活動の役割に着目して—

岡 崎 藍

(本講座大学院博士課程前期在学)

Music Making in the Elementary School Music Textbooks: With a Focus on the Aim of Each Subject and Effects of Activities

Ai OKAZAKI

Abstract

The purpose of this study is to clarify the process of systematic development on music making in elementary school.

Using music textbooks and teacher's manuals published in 2011, it was analyzed how music making is treated in order to achieve the aim of each subject which the textbooks ask for.

In conclusion, finding revealed that music making is treated by two different methods, one of which is the means for achieving the purpose and the other is composition.

はじめに

学習指導要領に示される創作領域は、改訂のたびに様々な活動のあり方を提示してきた。近年の大きな変動として、平成元年から創作領域に導入された「音楽をつくって表現できるようにする」活動が、平成20年改訂の学習指導要領においては「音楽づくり」として新たな方向に定義付けられたことが挙げられる。このことは、学校で行われる創作活動が、流動的な意義と役割をもった活動であると同時に、幅広く展開できる可能性をもつ領域であることを意味している。小学校において創作領域が果たす役割は、広範囲にわたる。平成23年度出版の教科書では、抽象的な音や音楽の要素という枠のなかで、自分のイメージを思いや意図をもって表現する場の提供や、音楽の要素や楽器の奏法を主体的に学ぶといった、音楽の知識・技能を身に付けるための手段として使われている。また、日本の音楽や世界の音楽に親しむために、そこで使われている音階やリズムなどを用いて音楽づくりをすることで、雰囲気をより身近に感じ取る役割も担っている。このように、創作活動は音楽活動の様々な場面で使うことができる一方で、取り扱いによって、音楽をつくることの系統性や独立性の拡散が懸念される。

その要因の1つは、音楽科教科書における創作活動の構成の仕方にある。平成17年度出版の教科書を検討した松永(2007)は、「音楽をつくって表現する」活動の取り扱いは、背景にある音楽指導観の違いに大きく影響されていると指摘している。

本研究では、小学校における創作活動を、題材のねらいを達成するために果たしている役割や意義という視点から捉えたい。創作活動そのものにおける系統的な発展のプロセスを明らかにすることを目的とする。その際、平成23年度に出版された教育芸術社と東京書籍の教科書における創作領域の具体的な内容の検討を行い、創作活動を行うために身に付けておくべき力を導き出し、創作活動のプロセスのあり方について考察を進める。

1. 平成23年度出版・小学校音楽科教科書における音楽づくりの内容

平成23年度に出版された小学校音楽科教科書における音楽づくりの題材構成と内容について、教師用

指導書をもとに概観し考察を行う。本研究では、音楽づくりにおいて音楽の三要素の全てを扱っている教育芸術社及び東京書籍の教科書を用いる。

(1) 教育芸術社・小学校音楽科教科書

音楽づくりを含む各学年の題材と、その目標を（表1）で示した。

表1 教育芸術社 音楽づくりを含む題材

学年	題材（何を目標としているか）	学年	題材（何を目標としているか）
小学生の音楽1	はくを かんじとろう	小学生の音楽4	楽譜を読もう
	はくに あわせて うたったり てを うたったり することができるかな。		楽譜を見ながら階名で歌ったり、えんそうしたりすることができるかな。
	はくに のって リズムを うたう		拍の流れにのろう
	はくを かんじながら うたったり リズムを うたったり することができるかな		4拍子や6拍子の流れに乗って、えんそうしたりきいたりすることができるかな。
	けんぱんハーモニカを ふこう		いろいろな音色を感じ取ろう
	どから そのけんぱんのいちを おぼえて、きれいな おとで けんぱんハーモニカを ふけるかな。		音のとくちょうを感じ取ったり、音の組み合わせを工夫したりすることができるかな。
	いろいろな おとに したしもう		せんりつのとくちょうを感じ取ろう
	いろいろな おとに みみを すまして、きれいな おとを みつけられるかな。		せんりつのとくちょうを感じ取ったり、曲の感じを生かしてえんそうしたりすることができるかな。
	おとの たかさに きを つけて うたおう		音の重なりを感じ取ろう
	おとの たかさを たしかめながら どれみで うたえるかな。		日本の音楽に親しもう
たがいの おとを きこう	日本の民謡のとくちょうを感じ取りながら、きいたりえんそうしたりすることができるかな。		
ともだちの こえや がっきの おとをききあいながら、みんなで えんそうできるかな。	音楽のしくみ		
小学生の音楽2	音の たかさに 気をつけて うたおう	小学生の音楽5	和音の美しさを味わおう
	音の たかさを たしかめながら ドレミで うたえるかな。		和音のひびきやその移り変わりを感じたり、きれいな響きを味わって演奏したりすることができるかな。
	はくに のって リズムを うたう		曲想を味わおう
	2びょうしや3びょうしを かんじながら、うたったりリズムを うたったり することができるかな。		曲想の移り変わりを感じ取ったり、旋律の特徴を生かして演奏したりすることができるかな。
いろいろな おとに したしもう	音楽のしくみ		
みんなで 楽しく	小学生の音楽3	いろいろなひびきを味わおう	
楽譜を読もう		歌声や楽器の音が重なり合う響きを感じたり、きれいなひびきを味わって演奏したりすることができるかな。	
楽譜を見ながら階名で歌えるかな。		世界の音楽に親しもう	
拍のながれにのろう		世界の国々のいろいろな音楽や楽器の音色の特徴を感じ取って、そのよさを味わいながらきいたり演奏したりすることができるかな。	
2拍子3拍子、4拍子のながれにのって、えんそうしたりきいたりすることができるかな。		物語と音楽	
いろいろな音色をかんじとろう		音楽のしくみ	
音のとくちょうをかんじとったり、音の組み合わせをくふうしたりすることができるかな。			
せんりつのとくちょうをかんじとろう			
せんりつのとくちょうをかんじとったり、曲のかんじを生かしてえんそうしたりすることができるかな。			
音の重なりをかんじとろう			
重なり合う音のひびきをかんじとりながら、きれいな音でえんそうできるかな。			

教育芸術社の音楽づくりは、低学年ではリズム、言葉、音、楽器を用いた多様な遊びの形態を通して行われる。中学年になると、低学年よりも多くの音楽の要素が取り上げられている。音楽づくりの活動は、教科書に提示されている音やリズムの選択肢から、子どもたちが選び組み合わせる方法や、教師の範奏・範唱を模倣する方法が用いられている。さらに、個人でつくったフレーズやリズムを、グループでつなげたり重ねたりしながら音に出す活動を通じて、無理なく楽しみながら音楽をつくる体験を行う。それらを生かして、高学年では、実際に自分で旋律や曲をつくる活動が盛り込まれている。

音楽づくりの内容は①音づくり、②リズム伴奏づくり、③旋律づくりに大きく区別できる。

①音づくり（音遊び）は、楽器の演奏と組み合わせで行われることが多い。1年生においては、場面のイメージ（夜の星空）に合う音色を工夫して表現する効果音づくりの活動がある。2年生では、音そのものへの意識を高め、3年生では、思いや意図をもってイメージに合う音（魔法をかける音）を表現するために、様々な楽器の演奏を試し、4年生では、材質の違う打楽器を組み合わせたりリズムアンサンブルを行い、強弱や曲の始め方・つなぎ方・終わり方を考え、1つの作品に仕上げることに、即興的にリズムをつくることの両方を取り上げている。

②リズム（伴奏）づくりは、2年生では2拍子を体得するために和太鼓の音や掛け声を用いながらリズム唱を行う。3年生では旋律の特徴や、音の重なりを感じ取ることを目的とした題材で、関連した内容としてリズム伴奏づくりが設けられ、同じ構成が4年生でも見られる。ただし、4年生ではつくったリズムを友達と組み合わせるなど、より発展的な内容になっている。5年生ではI、IV、V、V₇の和音の響きを味わい、慣れるため、リズム伴奏を工夫しながら鍵盤楽器を弾く活動が取り入れられている。また、5・6年生のリズム伴奏づくりで共通することは、提示された曲にふさわしいリズムはどのようなものかを考えて、演奏や合奏をする点である。曲想や曲の変化を感じ取り、思いや意図をもって表現する手段のひとつとして、リズム伴奏の演奏を工夫することが求められる。

③旋律づくりには3つの種類がある。曲のまとまりや構成を考えながら旋律をつくる活動、和音の構成音を使った旋律づくり、お囃子の旋律を模した旋律づくりが3～4年間にわたって行われる。曲のまとまりや構成を考えながら旋律をつくる活動は、3年生から6年生にわたって行われ、既習曲から音楽の構造（形式）を学び、実際に旋律をつくるもので、学年が上がるにつれてつくる旋律も長くなる。和音の構成音を使った旋律づくりは、歌唱曲の最後の部分に合う旋律を、和声に基づいた音から選びつけていく。2・3年生ではV₇-I、4年生では、I-V₇-I-II-V₇-Iの和声に基づいた旋律づくりと発展している。お囃子の旋律を模した旋律づくりは、3音あるいは5音（四七抜き）の音階をもとに音を選び、リズムパターンと組み合わせるお囃子をつくる活動として、3・4年生で行われる。

(2) 東京書籍・小学校音楽科教科書

音楽づくりを含む各学年の題材を（表2）で示した。

表2 東京書籍 音楽づくりを含む題材

学 年	題 材 名	学 年	題 材 名
あたらしい おんがく1	おんがくづくりをたのしもう	新しい音楽5	アンサンブルを楽しもう
新しい音楽2	音楽づくりをたのしもう		音楽づくりを楽しもう
新しい音楽3	音楽づくりを楽しもう	新しい音楽6	アンサンブルを楽しもう
新しい音楽4	体とリズムで楽しもう 音楽づくりを楽しもう		音楽づくりを楽しもう

東京書籍の音楽づくりは、低学年で音色や問いと答えなどの音楽の仕組みに着目して「リズム」で表現できる活動を行う。また、それらの音楽の要素について学習できる鑑賞や歌唱活動が同題材内におかれている。「音遊び」（音楽づくり ア）と、「簡単な音楽をつくる」（音楽づくり イ）の両方を同時に扱える活動が意図されており、実際の活動を通して、音楽の仕組みについて楽しみながら体験することができる。

中学年になると、身近なもののイメージや日本の民謡を参考にまとまりのある音楽をつくるため、「旋律」

を中心に音楽づくりを行う。「即興的に表現」(音楽づくり ア)と、「仕組みを生かして音楽をつくる」(音楽づくり イ)の両方を同時に扱える活動が意図されている。実際の音楽づくりでは、用意された選択肢の中から、児童が組み合わせを考える。4年生からリズムの学習の際に、リズムの音楽づくりによる活用が始まる。

高学年では、基本的な和声進行や沖縄音楽をもとにイメージに合った音楽をつくるため、「音の重なり」を中心に音楽づくりを行う。「即興的に表現」(音楽づくり ア)と、「仕組みを生かして音楽をつくる」(音楽づくり イ)の両方を同時に扱える活動が意図されている。5年生では、旋律に合う和音をI、IV、Vの和音の中から実際に音を出しながら見つけ、和声感について学ぶ。また、6年生では、琉球音階から音を選び、旋律をつくる。5、6年ともに、つくったふしを友達と重ねることで「音の重なり」について感じ取る。

2. 題材のねらいからみた音楽づくりの位置付け

教育芸術社及び東京書籍の教科書における音楽づくりには、創作することそのものに焦点を当てた活動(創作)と、音楽の諸要素を学ぶための手段として用いられる活動の2つがある。音楽を手段として用いる場合は、さらに(a)主体的な練習に取り組む手段(練習)、(b)感じ取った音楽の要素を活用し、実践を通して体得を目指す手段(感受 → 活用)、(c)音楽以外のものから得た発想を、音楽で表現する手段(表現)、(d)感じ取った音楽の要素や曲想を、音楽で表現する手段(感受 → 表現)の4つの位置付けを持った活動に区分できる。

教育芸術社では、創作活動そのものをねらいとした活動が6年生での巻末教材にしかみられない(表3)。しかし、題材のねらいを達成するために感受した音楽の要素や曲想を活用・表現する手段として、学年を超えた活動が行われている。特に音楽的な雰囲気や特徴、音楽の要素から感じ取ったものを、音楽を使って活用したり表現したりするなどして発信する活動が、多くみられる。

表3 教育芸術社 題材のねらいと音楽づくりの位置付け

題材のねらい		題 材 名	学 年	音楽づくりの位置付け
楽器奏法の習得やソルフェージュ力を高める		・けんぱんハーモニカをふこう	1年	主体的な練習に取り組む手段 [練習]…(a)
		・いろいろな おとに したしもう いろいろな ならしかたを 覚えましょうー	1年	
・音の高さに気をつけてうたおう	1・2年			
・楽譜を読もう	3・4年			
音楽の要素などを学びとる		・はくをかんとろう	1年	感じ取った音楽の要素を活用し、実践を通して体得を目指す手段 [感受] ↓ [活用]…(b)
		・はくについて リズムをうとう	1・2年	
		・拍のながれにのろう・日本の音楽を親しもう	3・4年	
		・いろいろな音色を感じ取ろうーリズムアンサンブルー	4年	
		・曲想を味わおうーリズムアンサンブルー	4年	
		・いろいろなひびきを味わおう ・世界の音楽を親しもう・音楽のしくみ(巻末)	5年 6年 6年 3・4・5年	
表現	音楽で表現する	・いろいろな音にしたしもう ・いろいろな音色をかんとろうー組み合わせた音を入れて演奏しましょうー	1年 3・4年	音楽以外のものから得た発想を、音楽で表現する手段 [表現]…(c)
	音楽の特徴やイメージを、自分の思いや意図をもって表現する	・たがいの おとを きこう ・みんなで たのしく・せんりつ の とくちょうを かんじとろう ・音の重なりを かんじとろう ・曲想を味わおう	1年 2年 3・4年 3・4年 5年	感じ取った音楽の要素や曲想を、音楽で表現する手段 [感受] ↓ [表現]…(d)
音楽づくりをすることを示す		・物語と音楽	6年	[創作]

一方、東京書籍では、創作活動そのものが題材のねらいとなって1年生から6年生までの全学年で取り組む構成がなされている(表4)。つまり、音楽づくりが目的となった活動が、明確に示されている。

また、4年生以降から、リズムを感じ取り活用することでより深い理解を目指す活動において、音楽づくりが手段化されている。

表4 東京書籍 題材のねらいと音楽づくりの位置付け

題材のねらい	題材名	学年	音楽づくりの位置付け
音楽づくりを示す	・音楽づくりを楽しもう	1～6年	創作
学ぶ事項（音楽の要素の体得など）を示す	・体とリズムで楽しもう ・アンサンブルを楽しもう	4年 5・6年	感受 ↓ 活用…(b)

教育芸術社と東京書籍は、音楽づくりを目的として扱うことに重きを置くか、あるいは手段として扱うことに重きを置くかが大きく異なる。しかし、両社とも音楽の要素を感受し活用する位置付けと創作活動そのものを目的とするところは、一致がみられる。教科書における音楽の位置付けを（図1）にまとめた。

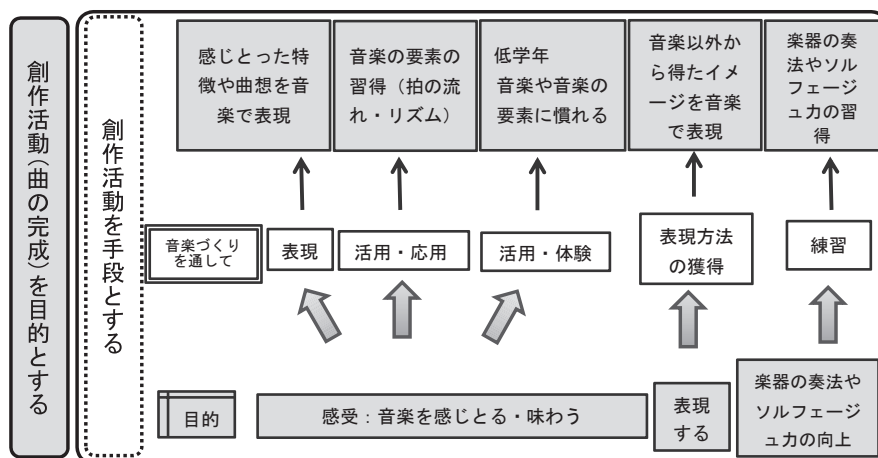


図1 教科書における音楽づくりの位置付け

3. 音楽づくりを行う際に必要な力

創作活動においてどのような曲をつくらせたいかによって、必要となる力の重きが異なる。旋律やリズム、ハーモニーなど音楽の三要素に基づいた曲づくりを目標とする場合は、音楽の諸要素についての体得と知識が基盤となる。一方、絵や物語など音楽以外から感じ取ったイメージを音や音楽を使って表現する場合は、音とイメージを相互に変換する発想力が必要とされ、音や音楽の構造から特徴を感じ取る力が支えとなる。また、音楽を自らつくって表現しようとする態度と表現することへの積極的な意欲は、両方の曲づくりに必要となる。

4. 創作活動の視点からみた、音楽づくりの系統的プロセス

音楽の三要素をもとにした音楽づくりの場合は、諸要素の理解の重要度が高い。楽器の奏法やソルフェージュの向上（a）は、音楽づくりの視点からみると演奏したり記譜したりするための基盤であり前提であるといえる。また、感受したものを活用したり表現したりする活動（b, d）は、活用や表現方法の具体例を知る音楽づくりのための模倣や練習に当たるとみなすこともできる。低学年で行われる表現（c）は、自ら音楽をつくって表現する体験であり、音楽づくりへの好ましい態度の形成に影響を与えられ、音楽づくりへの積極的態度を身に付ける重要な活動といえる。

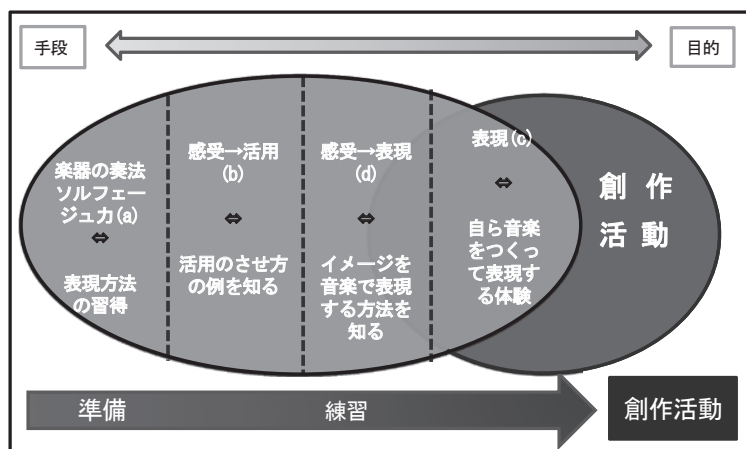


図2 創作活動の視点からみた音楽科教科書の音楽づくり

つまり、題材のねらいからみた場合に手段でしかない音楽づくりは、音楽づくりの視点からみた場合は、創作活動に向けての準備や練習としてみる事ができる。さらに、これらを系統化することが音楽づくりをより確かにするために重要と考える。

音楽をつくる体験は、低学年から行うことによって音楽での表現における抵抗感を減らす役割を果たす。また楽器の奏法やソルフェージュ力の習得には、継続的な取り組みが求められる。リズムや旋律、和音それぞれの理解において、感受と活用あるいは感受と表現の系統的な取り組みが必要であると考え。また、音楽の三要素を基にした音楽づくりを行う際には、音楽の諸要素を1つずつ単独で扱うのではなく、旋律とリズム、旋律と和声、リズムと和声など組み合わせる事が効果的である。

したがって、音楽づくりの系統的プロセスとして、日常的につくった音楽を表現し音楽をつくることへの意欲的な態度を育成するとともに、器楽や歌唱、ソルフェージュの練習や学習という継続のプロセスと同時に、発達段階や鑑賞・歌唱・器楽の領域との関連も考慮しつつ、音楽の三要素を組み合わせた活用・表現の経験や練習を系統的に行う事が求められると考える。さらに、その他の領域における活動の応用や発展として扱うだけでなく、このプロセスだけを取り出し、活動のまとめとして音楽をつくり上げる創作活動を、到達目標として設定することで、音楽づくりに一貫性をもたせることができると考える。

おわりに

歌唱・器楽と同様、音楽づくりにおいても活動前の準備や練習は必要とされる。しかしながら、本研究で取り上げた音楽科教科書の構成は、音楽の諸要素を学ぶ手段に留まっていたり、突発的な音楽づくりで済ませていたり、音楽づくりの扱いはオプション的で断片的な部分も見受けられる。音楽づくりが自立した領域として扱われるようになるためには、音楽づくりのための系統的プロセスと曲づくりという目標からなる筋道が必要と考える。

本研究から、音楽づくりのプロセスの取り組み方について、示唆を得ることができた。中学校の創作領域への移行も視野に入れることで、創作活動の一貫性と発展性はさらに強固なものとなりえる。小学校段階における音楽づくりの可能性とともに、今後は中学校における創作活動もふくめたプロセスのあり方について見出していきたいと考える。

参考・引用文献

- 金本正武、坪能由紀子 (2009)『小学校新学習指導要領 ポイントと授業づくり 音楽』東洋館出版社、pp.16-18、46-48。
 小島律子 (2005)「戦後日本の「音楽づくり」にみられる学力観—「構成的音楽表現」からの問い直し—」『日本学校音楽教育研究会紀要』第9巻、pp.194-203。
 松永洋介 (2005)「小学校音楽科教科書における創作領域教材の研究—学習指導要領における「A 表現

内容(4)の項目「イ」を中心に、『岐阜大学教育学部研究報告』第52巻2号, pp35-48.
宮野モモ子, 本多佐保子(2009)『小学校音楽科教育法—創造性あふれる音楽学習のために—』教育出版,
pp.103-11.

三善晃ほか(2011)『小学音楽 おんがくのおくりもの1 教師用指導書指導編』教育出版.

三善晃ほか(2011)『小学音楽 おんがくのおくりもの1 教師用指導書研究編』教育出版.

三善晃ほか(2011)『小学音楽 音楽のおくりもの2 教師用指導書指導編』教育出版.

三善晃ほか(2011)『小学音楽 音楽のおくりもの2 教師用指導書研究編』教育出版.

三善晃ほか(2011)『小学音楽 音楽のおくりもの3 教師用指導書指導編』教育出版.

三善晃ほか(2011)『小学音楽 音楽のおくりもの3 教師用指導書研究編』教育出版.

三善晃ほか(2011)『小学音楽 音楽のおくりもの4 教師用指導書指導編』教育出版.

三善晃ほか(2011)『小学音楽 音楽のおくりもの4 教師用指導書研究編』教育出版.

三善晃ほか(2011)『小学音楽 音楽のおくりもの5 教師用指導書指導編』教育出版.

三善晃ほか(2011)『小学音楽 音楽のおくりもの5 教師用指導書研究編』教育出版.

三善晃ほか(2011)『小学音楽 音楽のおくりもの6 教師用指導書指導編』教育出版.

三善晃ほか(2011)『小学音楽 音楽のおくりもの6 教師用指導書研究編』教育出版.

文部科学省(2009)『小学校学習指導要領解説—音楽編—』教育芸術社.

文部省(1980)『小学校指導書—音楽編—』教育芸術社.

小原光一ほか(2011)『小学生のおんがく1 指導書 実践編』教育芸術社.

小原光一ほか(2011)『小学生のおんがく1 指導書 研究編』教育芸術社.

小原光一ほか(2011)『小学生の音楽2 指導書 実践編』教育芸術社.

小原光一ほか(2011)『小学生の音楽2 指導書 研究編』教育芸術社.

小原光一ほか(2011)『小学生の音楽3 指導書 実践編』教育芸術社.

小原光一ほか(2011)『小学生の音楽3 指導書 研究編』教育芸術社.

小原光一ほか(2011)『小学生の音楽4 指導書 実践編』教育芸術社.

小原光一ほか(2011)『小学生の音楽4 指導書 研究編』教育芸術社.

小原光一ほか(2011)『小学生の音楽5 指導書 実践編』教育芸術社.

小原光一ほか(2011)『小学生の音楽5 指導書 研究編』教育芸術社.

小原光一ほか(2011)『小学生の音楽6 指導書 実践編』教育芸術社.

小原光一ほか(2011)『小学生の音楽6 指導書 研究編』教育芸術社.

Paynter, J., Aston, P./山本文茂, 坪能由紀子, 橋都みどり訳(1983)『音楽の語るもの』音楽之友社.

阪井恵, 山本文茂, 桂直美, 石村真希(2003)「音楽の生成を核にした音楽教育の理論と実践(21世紀の音楽科のカリキュラム開発—その2 これまでの遺産から学ぶ—)」『日本学校音楽教育研究会紀要』第7巻, pp.1-7.

津田正之, 坪能由紀子, 根本愛子ほか(2011)「座談会 音楽づくりを通して育まれる力(特集 新学習指導要領における指導のポイント—『音楽づくり』の授業をどう充実するか)」『初等教育資料』877号, pp.62-67.

湯山昭ほか(2011)『あたらしいおんがく1 教師用指導書指導編』東京書籍.

湯山昭ほか(2011)『あたらしいおんがく1 教師用指導書研究編』東京書籍.

湯山昭ほか(2011)『新しい音楽2 教師用指導書指導編』東京書籍.

湯山昭ほか(2011)『新しい音楽2 教師用指導書研究編』東京書籍.

湯山昭ほか(2011)『新しい音楽3 教師用指導書指導編』東京書籍.

湯山昭ほか(2011)『新しい音楽3 教師用指導書研究編』東京書籍.

湯山昭ほか(2011)『新しい音楽4 教師用指導書指導編』東京書籍.

湯山昭ほか(2011)『新しい音楽4 教師用指導書研究編』東京書籍.

湯山昭ほか(2011)『新しい音楽5 教師用指導書指導編』東京書籍.

湯山昭ほか(2011)『新しい音楽5 教師用指導書研究編』東京書籍.

湯山昭ほか(2011)『新しい音楽6 教師用指導書指導編』東京書籍.

湯山昭ほか(2011)『新しい音楽6 教師用指導書研究編』東京書籍.